

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和元年

7月3日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新井 篤 志

同 学年部長 加藤 沙 智 子

【提案日時】

6月 5日 (水)

提案 池田 翼先生 (鉄小)

【会 場】

横浜市立 鉄小学校

司会 宮原 美由紀先生 (末吉小)

記録 高林 宏成先生 (鶴見小)

○単元名

「鉄コーティング直播栽培で持続可能な米作り」

○自評

- ・学校で米づくりに取り組んでおり、言葉の理解や体験を通じた実感がある。
- ・鉄コーティングは持続可能な農業ではと考え教材化した。
- ・単元は教科書と比べながら進めた。
- ・資料は予定と違うものを出した。予定していたものは一般的な栽培と鉄コーティングを比べる資料であった。
- ・授業の後半で日本のこれからの農業について考えさせたいという思いがあった。

○グループ協議

〈視点①〉

- ・日本の農業の今後を考えるのは本時では難しかった。
- ・今までの学習をもとに話し合いができていた。
- ・前時の学習の中で米作りへの理解がしっかりとされていた。

〈視点②〉

- ・学習問題に迫っていくためには、予定していた資料がよかった。さらに発芽率に絞ると子どもが考えやすいのでは。
- ・鉄コーティング米について子どもたちがよく調べていた。
- ・本時で前に置いてあった育苗箱をもっと活用できればよかった。
- ・子どもの「全部鉄コーティングにすればいい」という発言が本時目標に迫っていくポイントであった。そこで問い返しや資料があればよかった。
- ・子どもたちにとってズレがなかった。全てを鉄コーティングにしていなくていいところがズレを生み出せたかもしれない。

○指導講評

〈菊名小学校校長 野間 義晴 先生〉

- ・子どもたちがよく調べていた。教師の丁寧な支援が感じられた。
- ・教師の出るタイミングを考える必要がある。子どもの数字の捉え方がズレを生むことも。

〈上寺尾小学校校長 皆川 吉次 先生〉

- ・子どもの意欲が素晴らしかった。子どもの発言力や文章力も高かった。
- ・板書は、教師が求めているものに着目しすぎていた。発言も答えを求めようとしていた。
- ・グループでの相談はより意図をもった形で行うとよい。
- ・問題を子ども自らが見つけ、そのことを教師が細かくみとり、認めたり、つなげたりすることが大切。

〈北部学校教育事務所指導主事 大滝 文平 先生〉

- ・子ども同士の関係ややり取りが素晴らしかった。また教師が子どもと考えていこうとする姿勢がよかった。
- ・考えを整理する時間が必要。問い返しや整理することが本時目標に迫るきっかけとなる。
- ・子どもの発言を丁寧にみとることで、本時目標に迫るきっかけをつくることができる。
- ・日本を支えている一般的な米づくりを理解することも重要。
- ・意図をもった、指名や机間指導を心掛けたい。

文責 加地 亮祐 (新鶴見 小学校)